

八丈島 水産だより 4月号 2011



八丈富士のふもとにオオシマザクラ



花と葉

3月も数日おきに雨が降ったり晴れたり繰り返してました。風も強い日が多く、漁師さんは漁に出かけられる日が少なかった（3月は10日くらいしかありませんでした）ので、大変です。八丈富士のふもとには緑のなかにポツポツとオオシマザクラが白く咲き始め、ウグイスの鳴き声が「ホーホケキョ」と響いています。

魚は、春トビ（ハマトビウオ）、キンメダイなどが水揚げされています。この時期にみんなが期待するカツオは、まだほんのわずかししか獲れていません。

■春のカツオはどこに？



カツオの「ひきなわ」漁

日本の太平洋側には、世界でも有名な暖かい海流である黒潮が流れています。カツオは、黒潮に沿って九州から四国の沖合いを通り3月頃に伊豆諸島の南側にやってきます。今年は黒潮が八丈島の近くを流れているのでカツオを探し易いですが、まだカツオの姿をほとんど見かけないようです。八丈島で春先に水揚げされるカツオは年々減ってきているので、漁師さんはカツオがいなくなってしまったのかと、大変心配しています。

■どんどん作っています。

今日も加工場から元気な声が聞こえてきます。八丈島漁協女性部の「お魚研究会」の皆さんは、春トビ（ハマトビウオ）のミンチを作ったりビンナガマグロなどの切身づくりでとても忙しいです。



ハマトビウオ



ビンナガマグロ



加工場の作業